

合成ゴムのR事業開始

人工芝のクッション材に

加山興業

産廃の収集運搬や中間処理、建物解体などで実績を積む加山興業

(名古屋市、加山順一郎社長、☎0533・89・0375)は、

工場などから排出される合成ゴムの端材を破碎、分級して人工芝のクッション材にするチ

ップ化製造事業を豊川営業所(愛知県豊川市)で開始した。手薄にな

っていたマテリアリサイクル分野を確立した。

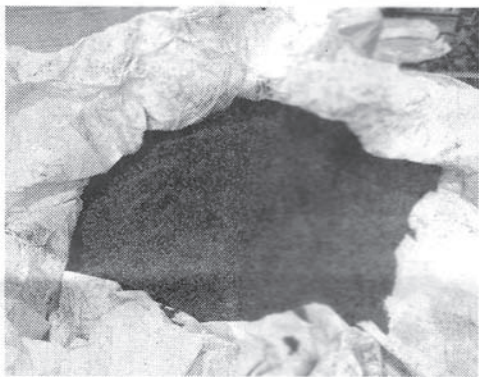
生産目標は月産200ト。将来的には同300ト程度まで伸ばす

考え。原料となる廃タイヤは、工場から排出される合成ゴムのほか、中間処理施設で30

ー50ミに破碎されたものを有価で買い取る。

集荷されたものを同社で破碎・分級。1ー2ミの大きさにし、人工芝のクッション材として製品化する。規格外となった製品は、燃料として製紙会社などに出荷。破碎時、金属くずが発生した場合はスクラップ業者に売却する。

人工芝のクッション材として利用される



製品の品

質は、原料の質に大きく左右されることから、良質の原料確保がポイントだという。需要の65%を関東圏が占めているため、今後、

販路の拡大が必要になる。